

CONTENTS ◆秋のつどいレポート ◆おくさわ今と昔 ◆ニホンオオカミ  
◆グリーンサムのお庭拝見 ◆おくさわのアート ◆会からのお知らせ

## 秋のつどいレポート

### 第1部 奥沢グリーンマップ・デビュー

秋のつどいⅡは11月18日(土)に奥沢東地区会館で開かれました。まず、提案以来2年近くをかけて製作したグリーンマップのおひろめです。出来立てのマップが御来場の皆様に配られて、企画・製作キャップの堀内さんから説明がありました。スライドを交えての説明を、地図を拵げて場所の確認をしながら皆熱心に聞いていらっしゃいました。写し出される樹木については長瀬さんから、奥沢に点在する美術館については毛利さんから説明があり、1部を終ってティータイムになりました。



### 第2部 おくさわコンサート ♪ シャンソンを聴く

第2部は“おくさわコンサート -シャンソンを聴く-”です。奥沢4丁目にお住まいの華彩(はなどり)かほろさんと伴奏者藤野聡さんをお迎えして、楽しみにしていたコンサートが始まりました。曲は“サントワマミー”“バラ色の人生”“セ・シ・ポーン”“愛の讃歌”など馴染みの曲を含めて8曲、語りかけるようなシャンソンの歌声がやさしく心に染みていきました。最後にアンコールに応じての曲は“おおシャンゼリーゼ”皆で一緒に歌いました。とても豊かな満ち足りた気分になった秋の日の午後でした。(柳島)



# おくさわ今と昔

## モチの木の思い出

奥沢4丁目 江川洋子

我が家の仏壇の引き出しに、義父が書き残した師息集という冊子があります。江川家の家系図、家紋、出生、結婚、死亡など家族の消息が記録されています。それによると、義父は新潟県五泉市の本家より分家して、昭和13年(1938)奥沢に居を構えたとあります。

姑の話によると、家の東側のぬれ縁に立つと、奥沢駅ホームにいる義父の姿が見えて、手を振って「行ってらっしゃい」をしたそうです。まだ家もあまり建っていなかったそうで、現在ではとても信じられない、のどかな風景だったようです。

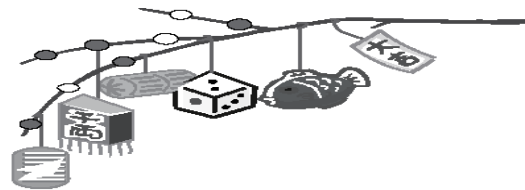
昭和33年(1958)私は江川に嫁ぎました。当時、江川の家は、入り母屋造りの屋根、赤金の雨樋、玄関は二枚の格子戸を左右に開けるなど、平屋の純日本家屋でした。門かぶりの赤松があり、サツキの生け垣は、花の季節になると、美しい紅色に染まりました。

野趣豊かな庭には、泰山木、モチの木、モミジ、柿などが四季を彩り、キジバトが巣造りをして、ヒナをかえたこともありました。

昭和48年(1973)5年間寝たきりだった姑が亡くなり、遺産相続の問題が生じ、庭を手放すことになりました。まだ青い実をつけていたユズも、香り高く清らかな白い花を咲かせた泰山木も、殆ど庭木は処分されました。それでも庭を買った人が、モチの木だけは残してくれたので嬉しかったのです。モチの木は、子供たちが小さかった頃、木登りをして高い枝に股がり、得意そうに「お母さん」と声を張りあげ私をハラハラさせた思い出の木です。やがて、そのモチの木も切られてしまいました。数本の丸太となったモチの木が隣家の門前に転がっているのを見て、私も娘も泣きました。夕闇の中に黒々と横たわるモチの木は、まるでムクロの躯のように思えました。

時代が変わったとはいえ、緑が少しずつ失われてゆくのは哀しく寂しいです。生け垣がブロック塀になって、庭も狭くなったけれど、少しでも緑を茂らす工夫をしようと思います。

このシリーズでは奥沢に長くお住まいの方と新しく移ってきた方々など、毎回2人の住民の方が登場し、このまちにちなんだエピソードを語っていただきます。



## 奥沢の花と猫

奥沢2丁目 中島穂子

このもの静かな町(奥沢)に移り住んでもう5年になりました。今回この原稿を書くに至って気がついた事は、この辺りを全然知らないという事でした。それで少し散策をすることにしました。大きな家・雑然とした家・元気な家—それぞれのお庭に木々やお花があり、それが通る人々を楽しませている様子。我が家も(庭がないので)わずかな花鉢を置いたりして楽しんでます。時折通りがかりの方が「綺麗にしていますね」と声をかけて下さいます。それがとても嬉しくて、花が枯れると急いで植え変えたりするこの頃です。

ちなみに私がここに来て初めて友達になったのは黒猫のゆり子ちゃんです。朝に夕にお早よう!おやすみ!の挨拶をする仲となり、暖かい日には娘の車の上でお昼寝などして、それがとても可愛くてほほえんでしまいます。そのゆり子ちゃんが近頃体調が悪く、外出しないので逢う事が無く淋しく思う毎日です。又元気なゆり子ちゃんに逢える日を待っている今日此の頃の私です



●奥沢・自由が丘あたりの古い風景が写っている写真をお持ちの方はご連絡下さるようお願いいたします。

●このシリーズへの御投稿をお待ちしております。お話を聞かせ下さる方にはうかがいに参ります。

# ニホンオオカミ

## かつて日本に棲息した愛すべき動物

黒井眞器（天然記念物柴犬保存会副会長）

先々号の「土・まち・みどり」（2006年9月発行）にオオカミの話題が登場したことにちなみ、2丁目在住の黒井眞器さんから、原稿をいただきました。奥沢二丁目の、庭木の繁る広いお庭に日本古来の柴犬を飼育し、保存に30年以上も尽力なさっておられる黒井さん。犬のルーツと言われるオオカミについて、興味深いお話を寄せてくださっています

ニホンオオカミ（日本狼）は、本州、四国、九州に棲息した日本固有の狼ですが、約百年前、明治38年に、和歌山県鷺ケ口（わしがくち）の山中で漁師によって撃たれ、死亡した一頭が最後の棲息記録で、その後絶滅したと考えられています。

この個体は、来日中の英国人研究家アンダーソン氏によって英国へ持ち帰られ、剥製となって大英自然史博物館に保存されています。そのほか、オランダのライデン国立自然史博物館（シーボルトが寄贈）、ベルリン市のフンボルト大学に各一体ずつあり、国内では、上野の国立科学博物館（福島県の狼）、東京大学農学部、和歌山大学にそれぞれ一体ずつ保存されています。記録の確かなものとしては、世界中にこの6体だけが残されています。

農家の人々にとって狼は、イノシシ、シカ、サル、キツネなど農作物や家禽を荒らす害獣たちを捕食してくれる益獣でした。日本国内では、頭骨などを大切に祀っている家もあります。また、“大口の真神”（オオグチノマカミ）と称し、神聖視され、祀られたりしています。一方、ヨーロッパなどの牧畜を生業とする地域では、羊や牛などを襲うため嫌われて、

『赤ずきんちゃん』のような童話も生まれ、人々に恐い悪い動物という印象を与えてしまいました。

実は狼は家族愛の大変強い動物で、その群れはよく統率がとれていて、大変賢く用心深いので、人間を恐れて近づきません。また、現在の犬たちの祖先である狼は、愛情をもって飼育すれば、犬と同じように飼い主になつきます。

イヌ科動物の研究家平岩米吉（1898～1986）氏は昭和5年頃から自由が丘3丁目の自宅で、狼をシェパード犬とともに飼育し、その生態を研究しておられました。その狼は朝鮮狼、中国狼、モンゴル狼など大陸産のオオカミでした（日本狼は先述通りすでに絶滅）。

平岩氏のイヌ科動物に対する最大の貢献は、犬の難病であったフィラリヤ（心臓寄生虫症）対策であり、今の犬たちが長寿を保つことができるのは氏の研究成果に基づいています。

平岩邸は今も“白日荘”（はくじつそう）の表札が掲げられて往時の趣を残し、長女の平岩由伎子氏により日本猫研究が行われ、また米吉氏創刊（1934年）の『動物文学』の刊行が続けられています。



## グリーンサムのお庭拝見 vol.24

「アー！みかんがなっている」と子供達が歓声をあげて通っていくの。南西の角の椎の木に鳥が三つも巣を作っていましたよ」と楽しそうに話して下さるのは2丁目30にお住まいの森本さんです。お訪ねしたお玄関には20年前新築さた折に頂いた鉢植えのカボックが形よく整えられて置かれています。

春待ち顔のクリスマスローズ数種と南山スミレの脇を通ってお庭に出ると、よく手入れされた芝生が広がっています。芝生を囲んで金木犀・寒椿・モチ・杏・ミカン・梅・花柚子・柿・ブルーベリー・花芽がつきすぎて少し取除いた石南花。木々の手前にはアイリス・プリムラ・ハーブ・19鉢になった日本桜草・万年青・万両と、白・橙色・赤色の千両。ピンク・薄紫・濃紫の都忘れは毎年挿芽で維

持・アマリリス・おだまき・シャカランなど。西側は多種の花菖蒲です。ご近所の方と菖蒲の情報交換がとても楽しみなのだそうです。縁先の三和土に沿ってクロコスミア・クロッカス・兔のみみ。レンガで囲んだ花壇には咲き出した寒水仙他数種の水仙、暖冬のせいかサフィニア等が元気です。

花菖蒲の手前に、高さ150cm2段の棚があります。3月頃にさぎ草の球根を植えます。土を入れ表面に水苔を張った植木鉢を、水を入れたトロ箱に入れて、夏の間温度が上がりにすぎないよう更に寒冷紗で覆うそうです。こうして毎年咲くさぎ草はさぞみごとな事でしょう。増やさないようにと思いながらついお花を増やしてしまうと微笑まれる笑顔は、日当たりのよい広く美しいお庭よりもさらに魅力的でした。(立花)

## おくさわのアート - 2 - グリーンマップに表示した地域の美術館・ギャラリーを順次訪問して紹介します(毛利)

### 『富田道雄アトリエサロン』

奥沢8-28-17 TEL&FAX 03-3701-6998  
東急大井町線九品仏駅 下車5分 03-3703-8030



スケッチ 毛利恵美子

この美術館は奥沢8丁目の静かな住宅街の一角にあります。富田道雄さんが愛情を注いで育てたヤマザクラの木が来館者をあたたかく迎えてくれます。玄関を入るとそこは別世界、静物画・風景画・・・絵はがきなど数々の□□が飾られています。都見た道雄画伯は著名な水彩画家でしたが1994年に93才で他界されました。その後ご遺族の方々によって「水彩画の小さな美術館」として企画展の形で開催されています。今年(2007年)は「欧州・水彩の旅展」と題して、パリを拠点にイタリア・スペイン・イギリスで描かれた

風景画33点が展示されています。お若い時から絵に親しみ描き続けた作品は誰にでもわかり易く、作者の心穏やかで温かなお人柄がにじみ出ている作品ばかりです。毎週火曜日は10:00~19:00開館、火曜意外でもお電話頂ければ対応できるそうです。この安らぎの美術館で絵に囲まれ、心豊かなひとときをお過ごしになることをおすすめします。



## 会からのお知らせ

- 新春のつどいは、2月4日(日)1時30分から奥沢東地区会館で開催します。第1部は奥沢食販社長の福田詔三さんに「お米のはなし・奥沢のまちを楽しくするはなし」と題してお話をさせていただきます。第2部は世田谷区池尻で活動する〈大山みちの会〉のメンバーに落語とマジックをお願いしました。どうぞ御出掛けください。
- グリーンマップは、公共施設や個人商店・医院・町会など

で御協力頂ける所に順次お願いして、できるだけ多くの方が御利用下さるよう努力しています。預かって下さるお店・又は御紹介をぜひよろしくお願い申し上げます。

●会員アンケートに御協力下さいました皆様、ありがとうございました。大変貴重な御意見をたくさん頂き、只今整理中です。詳細は後日に御報告申し上げます。

### 土とみどりを守る会 連絡先

世田谷区奥沢 2-19-9 長瀬雅義 5729-0126  
世田谷区奥沢 2-41-2 柳島尚子 3718-8558